

中津市における全国遺跡報告総覧登録への背景と実務

浦井直幸（中津市教育委員会社会教育課歴史博物館）

Registering the Data of Nakatsu City in SORAN: Why and How?

Urai Naoyuki (Nakatsu Board of Education, Social Education Division, Museum of History)

- ・ PDF化／Digitization ・ イベント告知／Event PR
- ・ 市民サービス向上／Improving public services

はじめに

大分県中津市は人口約8万4千人、福岡県と境を接する県北の市である。文化財の照会件数は年間1000件を超え、試掘・確認調査は30件程行い、本調査も3～4件実施している。中津市教育委員会ではこれら各種開発対応・遺跡範囲確認調査・分布調査の成果をまとめた報告書を毎年1～4冊程度刊行しており、これまで122件の報告書を公開した（令和3年12月時点）。

刊行した報告書は、中津市立図書館をはじめ、全国の図書館、博物館、大学（考古関係学部を有する）、九州・沖縄・山口の市町村教育委員会などへ発送している。印刷部数の関係から九州とその周辺以外の自治体へは送付しておらず、地域的な偏りが認められていた。また、過去に刊行した報告書の複写物提供希望者には、都度多くの時間を割いて複写作業を行っていた。平成15年度頃には市役所ホームページに一部のPDFファイルをアップし、上記課題の解決を試みたがデータの所在が不明となるなど課題は残されたままの状態であった。中津市ではこの課題を解決するため、全国遺跡報告総覧（以下、総覧）に参加することを決定し、現在随時総覧へのアップを行っている。以下、刊行に至る経緯と効果などについて紹介したい。

1. 総覧参加に至るまでの経緯

(1) 発掘調査報告書PDF

中津市では平成15年頃までに一部の報告書ではPDFファイルを作成していた。総覧が運用される以前はそれらを利用し市役所ホームページ上にアップを行った。しかし、市役所ホームページリニューアル時にそれらのデータが所在不明となり、一般の方々の閲覧が不可能になった。市役所担当課と再アップについて協議を行ったが、サーバー容量を圧迫するとの理由により、その要望が叶えられることはなかった。それ以降、刊行する報告書刊行時に納品されるPDFデータは蓄積されていったが、それらを公開する場のない状況が数年間続くこととなった。

(2) 参加の経緯

平成28年度、奈良文化財研究所の高田祐一氏より総覧の存在とその価値・可能性について教示を得る機会があった。総覧に参加することでこれまで市が抱えていた報告書PDFデータ未公開という課題が解消されることが期待されたため、内部協議を行った結果、総覧へ参加することが決定され、同年度より登録を開始している。

2. 登録作業について

(1) 作業の進め方

平成28年度から平成30年度末までにPDFが存在した21件の報告書データをアップした。なお、この

段階で県内18市町村の内、総覧への参加は中津市だけであった（現在宇佐市・豊後大野市が参加）。当市の場合、報告書印刷仕様書へ「CDにてPDFファイルを作成し提出するものとする。」と明記している。納品されたPDFファイルについて、年度毎にアップする報告書を正職員が決定し、一般事務を行う会計年度任用職員1名に実際の登録作業を任せている。担当職員にPDFデータを預け、総覧参加時に事務局より交付された手引き書に従って作業を進めてもらっている。

PDFデータのあるものは作業が容易であるが、ないもの（古い刊行年次の報告書）については、PDF化の作業が必要となる。残部が複数ある報告書については、裁断を行い事務室備え付けの複合機にてデータ化を行う。その際、注意した点を以下に箇条書きに記す。

- ・裁断した報告書はページ番号に誤りが生じないように、注意して取り扱う必要があり、PDF化後も錯簡が生じていないか、よく確認する必要がある。
- ・スキャナーの大きさの兼ね合いで、A3以上の大型図面がある場合は、分割してスキャンした。その際、前頁と重なる部分が出る形でスキャンした。
- ・モノクロとカラーの境目、本文と大型図版の境目など、複数回に分けてスキャン、PDF化したものは、その後PDF結合する必要が生じた（PDF分割結合のソフト使用）。
- ・DVDのある報告書だが、総覧へアップする際、そのままではデータ量が大きくアップできないものもあった。そのため、圧縮ファイルにて圧縮後、アップする必要があった（圧縮ファイルはフリーソフト使用）。

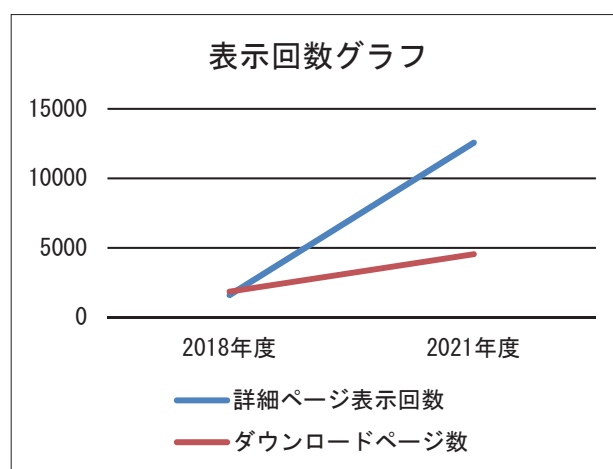
また、発行年の古い報告書は総覧にも抄録データの存在しないものがあり、報告書内容を確認するなど作成に時間を要するケースがあった。

3. 報告書総覧アップ後

(1) 総覧アップの効果

現時点で94件の報告書PDFをアップしている。

これはこれまで刊行した報告書の77%にあたる。平成30年度末にアップしていた21件について、詳細ページ表示回数は1,618回、総ダウンロード数は1,872回を数える。これに対し令和3年12月時点の詳細ページ表示回数は12,577回、ダウンロード数は4,564回を数える。わずか3年で詳細ページ表示回数は約11,000回の増、ダウンロード回数は約2,700回の増となり、多くの方に閲覧・利用されていることがわかる。報告書公開に携わったものとして各回数の増加は大きな励みになっている。



現在アップしている報告書の中で、最多のダウンロード数を誇るのは、国庫・県費補助を行って実施した各種開発・範囲内容確認調査などをまとめた市内遺跡概報の724回である（中津市文化財調査報告第75集）。他の本発掘調査報告書を抑え、概要報告書が最多を誇る理由は、長者屋敷官衙遺跡確認調査や中近世城館分布調査など閲覧者が興味を引く報告内容が掲載されていることが一因と思われる。また、同報告書内は報道発表を行った重要遺構について記載しており、市民の興味・関心が総覧データ閲覧へ向かった可能性もあり興味深い。

(2) 総覧の活用・メリット

年度末に刊行した報告書のPDFについては、翌年度に中津市歴史博物館ホームページに報告書名と総覧へアップした旨を掲載し、総覧へのリンクを貼り付けている。一般の方より報告書の複写依頼があった際は、すでに総覧へアップしているものについて



イベント告知例

はその旨ご案内しており、市民サービスの向上、職員の負担軽減が図られている。また、個人的にも論文などを執筆する際に、職場書架や関係機関へ赴かずに情報が入手できる点も大変便利であると感じている。

なお、総覧には市が行うイベント情報や発掘調査現地説明会資料のアップも可能である。実際、道の駅なかつの遺跡公園でおこなったイベントの告知を総覧にアップしており、市の取り組みを内外に知らせる場としても利用している。

これらの作業により総覧へアップしたデータについては、市役所サーバーを一切圧迫することがなく、安心して総覧へアップできる条件が整っている。

(3) 課題

市が刊行した報告書を総覧へ8割弱アップしたが、市民への周知を今後どのように進めていくのか

が課題であり、開発時の届出を促す市報の文中に総覧へアップしていることを記述することも一案かと思われる。PDFが存在しない報告書については随時PDF化の作業を進めたい。また、報告書内に他機関の専門家、遺物保存処理委託先などが執筆分担している場合があり、許諾関係をクリアーにして作業に掛かる必要のある報告書がある。古い刊行年次の報告書はこの確認作業に時間を要する可能性があるため、報告書刊行時に外部執筆者から事前に総覧アップの承諾を得ておいた方がよいと思われる。さらに、PDFを作成したが報告書刊行後に内容の誤りを指摘されたものについてもアップができていない。訂正したものをPDF化しアップしていきたいと考えている。

おわりに

中津市が報告書の総覧へのアップを始めてから約5年が経過した。この間特に問題なく運用・利用できており、今後も報告書PDFアップ作業を継続していきたい。県内でも多くの自治体が参加を妨げる諸問題を解決し、参加されることを期待したい。

ここ数年で総覧事務局の尽力によりアップされる報告書件数は飛躍的に増加した。今後総覧に参加する自治体や報告書アップ件数は確実に増加すると思われる。近年、所蔵スペース逼迫の問題から総覧へアップする予定の報告書の受け入れを辞退する機関も生まれている。今後、この流れは進む可能性があり、報告書印刷部数のあり方や配布形態の変更を迫られることも想定される。総覧のますますの発展を願うと共に他機関の動向も注視していきたいと考えている。